

新春の
ごあいさつ



が年によってどんどん変わる暦もけ
っこうあります。

またイスラム暦など他の暦をみる
と元旦はかなりばらばらです。元旦
が年によってどんどん変わる暦もけ
っこうあります。

つとも、また答えを見つけようと苦
労しています。

考えます。コロナ禍以降、時間の感
覚が少しおかしくなっているせい
か、特に今年はコロナの収束を願
いながらも、また答えを見つけようと苦
労しています。

んでいる地べたの暑さ寒さの周期は
どうも365日程度だと認識するの

で、自分の住
んでは人類は愚か
ではないのか

元旦と冬至はなぜずれているのか

コロナ収束を願いつつ「最適解」探る

たはずで、その目的さえみれば、
どの日を1年の開始とするかに明確
な理由はないはず。グレゴリオ
歴が現在の1月1日を1年の開始日
とした理由についても、ある政治的
事件の都合からそうなったという説
明が一般的です。つまり偶然です。
またイスラム暦など他の暦をみる
と元旦はかなりばらばらです。元旦
が年によってどんどん変わる暦もけ
っこうあります。

秋分は適当にずれません。だつたらな
るべく冬至に近い日を新年の初日に
したほうがすっきりするような気が
しますが、いかがでしょうか。

性もあ
りませ
ん。不
都合な
です。

ある領域で
は人類は愚か
ではないのか
という謎です。
昔から不思議に思っていることが
あります。「元旦と冬至はなぜずれて
いるのか」と

をつくる最大の目的は農作業の日程
づくりや、大河の氾濫防止などだつ
てきましました。

現在の冬至は12月21日か22日とい
うように年によって若干のずれがあ
るので、ある日を元旦としても正確
にはその前後
の日は日照時
間が最短にな
るとい
う可能
性もあ
りませ
ん。不
都合な
です。

暦の謎



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

にそう時間はかかっています。多
くの社会はかなり古い段階で365
日を1年とする暦をつくっていま
す。365日となっていない暦も結局
はいろいろな方法で日付を調整し、
うるう年も含めて1年という期間を
維持しています。

その点では元旦を固定しているグ
レゴリオ暦のほうが少数派に見えて
くるほどです。でもその固定した日
付に大きな理由がないなら、いつそ
のこと日照時間のいちばん短い冬至
を元旦にしたほうが美しい暦になる
ような気がして、ずっと不思議に思
っていました。

CONTENTS

1面
新春のごあいさつ

2面
海外実習報告
国際理解講演会
星野 ルネ氏(漫画家)

3面
にいがたBIZ EXPOに参加して
企業懇談会
3年ぶりの開催に162社179人

2・3面
教員の活動

4面
新潟市とSDGs連携協定結ぶ
情報システム学会全国大会
サテライトオフィス開設ー中央キャンパス



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



Twitter
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

ニュージーランド・ワイカト大学で異文化体験

8月4日から9月10日までニュージーランドのハミルトンへ、海外実習の一環として留学に参加しました。

マオリの文化に触れて

マオリの文化に触れて、歴史・

ニュージーランドの先住民であるマオリの文化を知るとともに、英語技能を向上させたいという思いからの参加でした。

留学を通して、多民族国家で

海外実習報告

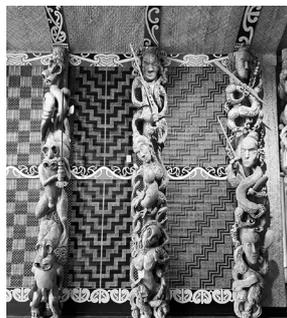
国際学部が毎年実施してきた「海外実習A・B」および「4カ月派遣留学」は、コロナ禍のため2年間中止していましたが、留学を希望する学生の声が多く、本学部全教員の総力戦で事前研修を徹底し、今年度の参加者8名を送り出しました。3年ぶりに実施された海外実習の報告会が10月12日に開催され、その中から2人の報告を紹介します。



子どもたちと記念写真に収まる小山さん

あるニュージーランド社会の実態や、ジェンダー平等、環境問題への取り組みなどを知り、マ

伝統などの異文化を学び、体験することができました。また、語



マオリの彫刻作品



マオリスタディで異文化を体験。手前が古屋さん

フィリピン・セブ島でボランティア活動

9月4日から16日まで、フィリピン・セブ島へ英語学習とボランティアに行きました。

様々な幸せのかたち

1週目は語学学校に通い、2週目は貧困層の人々の現状を自分の目で確かめるため、ボランティア活動に参加しました。

多くのスラム街や孤児院を訪れ、住民にスラムでの暮らしについて尋ね、子供たちと遊び、紙やペン、食べ物などを寄贈しました。印象に残っているのは、みんな今住んでいる場所が好きと話していたことです。劣悪な環境で生活していても、さまざまな幸せの形があることに気づかされました。



折り紙遊びを楽しむ子どもたち

学への自信や、多くの人と交流してたくさんの知識を得ることができました。皆さんもぜひ、いろいろな国を訪れて、多くのことを経験してきてください。

(国際文化学科 4年 古屋 遥香)

海外ボランティアに参加すると新しい発見がたくさんあります。皆さんもぜひ行ってみてほしいです。

(国際文化学科 4年 小山 凜子)

国際理解講演会

星野ルネ氏(漫画家)

国際交流委員会は12月11日に「国際理解講演会」を新潟中央キャンパスで開催しました。

星野ルネ氏(タレント・漫画家)を講師にお招きし、「関西弁アフリカ少年まんがで日本を語る」と題してご講演いただきました。星野氏はカメルーン生まれ、日本育ち。両国を行き来してきた星野氏が、見たもの、感じたこと、発見したことを、自著「まんがアフリカ少年が日本で育った結果」の内容も交えて、数々の美しいイラストレーションを示しながら分かり易い言葉で語っていただきました。

アフリカ少年

漫画で日本を語る

当日はあいにくの雨模様の中、35人の方が聴講しました。参加された方からは、「日本、日本人を客観的に見つめ、グローバルスタンダードについて学びたい機会となりました」などの感想が寄せられ、国外から、世界から見た日本について考える、貴重で有意義な時間となりました。

(国際交流委員会)



星野ルネ氏

鈴木 佑也(国際文化学科・准教授)

- ・(2022年6月)記事「ソヴィエト宮殿という重力：ソヴィエト宮殿一建築計画の誕生から頓挫まで」【ユラシア研究】66号(51~54頁)
- ・(2022年11月15日~12月3日)「20世紀ロシアノソ連芸術史」(新潟国際情報大学・中央キャンパス)

堀川 祐里(国際文化学科・講師)

- ・(2022年3月17日)講師 女性セミナー「踏み出せ！明日へ……どんな時代も顔を上げ、胸を晴って生きて行け！～後に続く者たちへ」 「どんな時代もたくましく生きてきたのが私たち女性です。」(横越地区公民館)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

- ・(2022年11月30日)「文を楽しみ、文学に恋する(志村正雄先生追悼文)」水声社ウェブマガジン「コメット通信」28号

the First Person」日本アメリカ文学会東京支部例会(慶応大学)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

- ・(2022年11月4日)「カンボジアにおける権威主義体制の持続と集団の権力継承」日本大学法学部政経研究所「政治研究会」(日本大学・オンライン)
- ・(2022年11月11日)「人民党長期支配下で進むカンボジア版『太子党』の台頭」【東南アジアの「二重のハイブリッド化」：米中対立とデジタル化がもたらす権力再編分析】研究会(京都大学・東南アジア地域研究研究所)
- ・(2022年11月14日)「人民党の対中傾斜とカンボジアの内政動向」東アジア共同体評議会 第93回政策本会議(日本国際フォーラム・オンライン)

3)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2022年12月)「陸上養殖における事業と市場創造」共同執筆 高井透「アグリバイオ」月刊誌 Vol.6 No.13 (61~63頁)

「いがたBI-Z EXPO」に参加して

私は10月13日に開催された新潟県最大級の商談型産業見本市「いがたBI-Z EXPO」に、初めて参加しました。今年で26回目



さまざまな企業の方とコミュニケーションを図る学生たち

企業懇談会

11月16日、新潟市中央区のAN Aクラウンプラザホテル新潟を会場に、「令和4年度企業懇談会」を開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により3年振りの開催となった今年、162

社から179人が参加しました。が、感染状況を鑑み懇親会は中止し、講演会のみ開催となりました。

はじめに、挨拶に立った越智敏

3年ぶりの開催に162社179人

川村晃司氏(本学客員教授)が講演

みに対するご理解、ご協力への謝辞を述べました。

続く講演会では、川村晃司氏(ジャーナリスト・新潟国際情報大学客員教授)をお迎えし、「ロシア

ばいでした。ふたを開けてみれば、大学の私たちを追い返すことなく、まるで商談をするかのような振る舞いで対応してもらい、違った意味で驚かされるばかりでした。

私は、数百ある企業の中から「EC新潟情報サービス株式会社」

コミュニケーションの大切さ実感 うれしかった就職活動へのエール

就職活動に向けた会社選びや環境選びの場にもなっています。

新潟市産業振興センターの会場に到着してからは、慣れないスーツを着て、興味のある企業ブースに行くのに緊張し、学生の私たちの話を聞いてくれるか不安でいっ

の話を聞きしました。事前に質問内容を考えていききましたが、どのような流れやどのタイミングで質問したらよいかわからず、会話の難しさを痛感しました。大学内では先生や学務課の方など大人

夫学長が、コロナ禍になってからの大学の状況や学生の様子を説明したあと、学生と社会、企業・団体との連携実績に触れながら、学生が学外の人間・組織と繋がることの重要性や、これまでの取り組み

・ウクライナ情勢から見る日本政治・経済の行方」をテーマにお話ししていただきました。長期化する「ロシア・ウクライナ問題」を中心に、世界各国への影響や今後の動向など、最新情報を交え、丁寧

に解説していただきました。

また、これまでの川村氏のジャーナリストとしての足跡を写真と共に振り返りつつ、最後まで興味深いお話を聞かせていただきました。

閉会後には、多くの企業関係者が会場に残り、キャリア担当教員

と接する機会はありませんが、社会に出て営業をする人と会話する経験は初めてでした。振り返ってみると、私が当たり障りのないことを話しても、私が言いたかった意図を汲み取り、言葉を言い換えて会話をしてくれていたことに度々気づかされました。

1時間にも満たない時間でしたが、コミュニケーションの大切さや、これからの就職活動に向けた励ましのエールもいただき、勇気をもらえました。こうした機会を与えてくださった「いがたBI-Z EXPO」の関係者および内田先生に心から感謝申し上げます。

(経営学科2年 本多翔)

および職員との情報交換を行うなど、懇親を深めました。

(キャリア支援委員会)



教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

越智 敏夫(学長)

・(2022年10月) 監修 「10代のうちを知っておきたい政治のこと」あかね書房 (95頁)

堀川 祐里(国際文化学科・講師)

・(2022年12月) 女性動員論(コラム10) 『思想史講義【戦前昭和編】』ちくま新書 (278~281頁)

2) 学会・研究会・講演等

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2022年10月2日) 「不安定労働が従業員のウェルビーイングに与える影響についての理論的検討: 相対的剝奪と職の不安定性の観点から」経営行動科学学会 第25回年次大会 (名古屋大学・中京大学/オンライン)

・(2022年11月5日) 林洋一郎 「自己不一致知覚が社会的比較や態度に与える影響: 経験サンプリング法による分析」北海道心理学会・東北心理学会 第13回合同大会 (北海道大学)

内田 亨(経営学科・教授)

・(2022年10月1日) Remy Magnier Watanabe "Antecedents of Emotional Contagion at Work in Japan." 国際戦略経営研究会 第15回年次大会 (二松学舎大学・オンライン)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2022年12月9日~10日) "Exploring the Influences on Undergraduate Thesis Supervisory Practices" ESBB-TDTU International TESOL Conference 2022 (Ton Duc Thang University, Ho Chi Minh, Vietnam, Online)

堀川 祐里(国際文化学科・講師)

・(2022年9月17日) 「戦時日本への働く女たち——ジェンダー平等な労働環境を目指して」社会政策学会労働史部会 2022年度第2回研究会 (オンライン)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

・(2022年9月25日) シンポジウム「アジア系アメリカ文学とオリエンタリズム——小野姉妹の功績を中心に」アジア系アメリカ文学界 (早稲田大学)

・(2022年11月26日) 「ケアするシェパード、ケアされるシェパード——The One InsideとSpy of

新潟市とSDGs連携協定結ぶ

強く決意表明をしました。

本学と新潟市は、新潟市内のSDGs達成に向けた

市民意識の向上や行動変容の促進を目的とし、令和4年9月29日に連携協定を締結しました。

締結式には、日ごろからSDGsを学び、実践している学生たちも出席し、代

食品ロス削減支援で始動

表して国際学部4年生野陽さんと小池きららさんが、「これまでの経験をいかしながら、SDGsネイティブでもあるZ世代らしい、新しく斬新な発想で新潟の今と未来に貢献していきたい」と取り組みに向けて力

お米や野菜などの寄付を受け付け、新潟市内の子ども食堂へ届ける仕組み「フレッシュフードシェア実証事業」を共同で企画し、今年度は来年度の本格稼働に向けて事前調査を実施していく予定です。

情報システム学会全国大会

31日11月26日、情報システム学会の全国大会・研究発表大会が新潟中央キャンパスで開催されました。本

大会は、研究発表、ポスターセッションに加え、(株)ユニークワン代表取締役社長の立川和行様から「安定思考の私が新潟に戻って起業した理由」と題して、ま

たフラワ(株)代表取締役会長の渋谷修太様からは「起業家の力で、故郷を元気に」と題して特別講演をして頂きました。両講演から新潟にかける情熱や将来構想が力強く伝わってき

新潟から発信する未来の情報システム

その後、本学会が標榜し

てきた「人間中心の情報システム及び情報システム学」についてパネルディス

カッションが行われ、大会は成功裏に終了しました。

全国大会の開催にあたり、新潟県および多くの学協会、企業からご後援、協賛を頂きました。この場をお借りしてご報告とお礼を申し上げます。

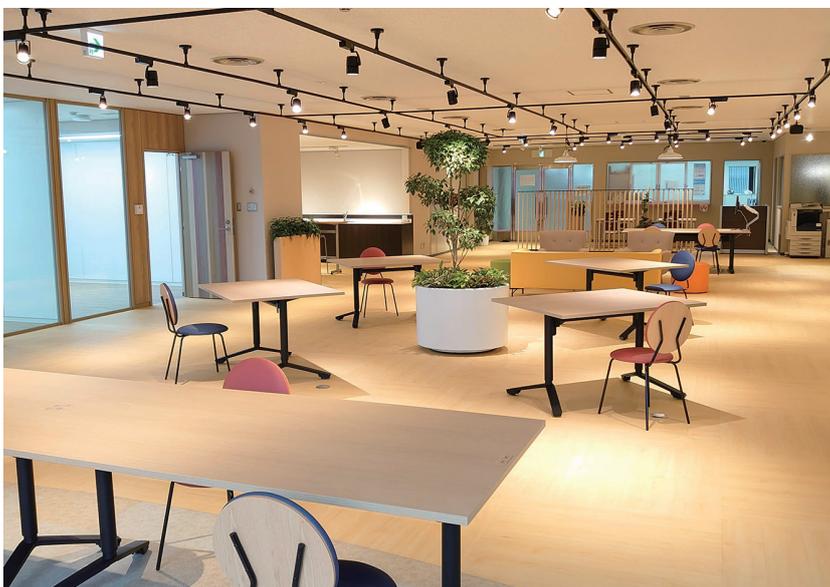
(情報システム学科教授

小林満男



新潟中央キャンパス2階に新潟国際情報大学学生会連携拠点「ツナグ」をオープンしました。「高等教育機関におけるサテライトオフィス等整備事業(新潟県)」に採択されて開設したもので、新潟市への新規進出企業および地元企業と、本学教員・学生のマッチングが生まれる場になることを目指しています。

学生と地域を「ツナグ」拠点に



生にとつて地域や社会といたった大学の外との関わりは重要であり、「ツナグ」を、そのちよつとしたきつかけとなる場にしていきたい」と述べました。新潟県産業労働部の金井健一部長は「学生、企業の方がここに集い、イノベーションにチャレンジすることに大きな期待を寄せている」と述べました。

サテライトオフィス開設——中央キャンパス

「ツナグ」